

白山権現

この白山権現という山の神の神社は、圓教寺が建立される前から何世紀にもわたって崇められてきた場所にある。日本の神話時代を描いた 8 世紀の古事記によると、偉大な神、素戔鳴尊が出雲に向かう途中、この山に立ち寄った。彼の姉は太陽の女神天照大神で、彼はその大和民族の開祖を軽んじたために追放されたのである。その後、山は素戔鳴尊の住まい（岩倉）として崇拝されるようになり、圓教寺が建立されるずっと以前、山には行者や聖人が訪れた。実際、「書寫山」という名前は、「素戔鳴山」の日本語の発音から発展したものだと考えられる。

966 年に開祖である性空上人（910–1007）が書寫山に到着してまもなく、性空上人は修行に没頭したいと願い、そして最終的にこの場所で悟りを開いたと言われている。また、性空上人が天女の姿を奇跡的に目の当たりにして、如意輪観音像を彫り、それを守るために摩尼殿を建てたのもここであったと考えられている。白山権現神社の縁起の良い歴史と、素戔鳴尊と圓教寺の開祖とのつながりは、世代を越えて巡礼者の訪問の動機となってきた。今日でも、毎年 1 月 18 日に圓教寺で平和と五穀豊穡を願う修正会の儀式が行われている。神社で圓教寺の守護神である乙天と若天の仮面をつけた信者たちが乱舞し、松明を振るって、鍾を鳴らすのである。